

二つの水路補修で資源向上

60か所以上のひび割れ部分をスコップやブラシなどで汚れを除去して一息

農業の持つ多面的機能発揮のための交付金事業の中には二つの事業があります。一つは農地維持に関するもの、もう一つは資源向上に関するものです。

農地維持

雑草管理

などの共同作業が中心となりますが、資源向上は施設の更新や、修復などが主

なものになります。

今年度の資源向上の対象は排水1号と大森水路に2路線です。昨年度に予定変更して緊急工事をし、本来の予定が次年度に回ったために、2つの対象ということになりました。

排水1号は一番北側の水路です。この水路の底板には、後から加工した溝がありました。かなり以前のことなので正確なことは分かりませんが、水の流れが良くないので、そうした加工をされたのだろうと思われまます。しかし、そのために非常に掃除がやりづらく、泥上げにも苦労するところでした。

部分は更新しましたので250メートル余りが古いままの状態です。ここに多数のひび割れがあることが分かっていますので、その補修を行うこととしました。

補修の方法は業者との話し合いの中で超強力防水テープを使用することとしました。水中でも貼り付けが可能であるというものです。

まず会員の自主施工としてひび割れ面の汚れ落とし作業を行いました。その上で、表面切削処理、防水処理、そして防水テープの装着を行いました。補修箇所は62か所に及びました。

今回の補修方法は、新たな方法であり、どの程度の耐久力があるのか分かりません。今後の効果と状況を常に確認しながら管理していくこととなります。



中央に見えるのが合成樹脂の防水テープ

今回はその溝をコンクリートで埋めてしまい、多少の水流を犠牲にしても管理しやすさを求めることにしました。

もう一つは大森農道の両側にある水路です。片側310メートルほどですが東側の一



— 線の部分が今回の施工箇所

「環境を守る」と言えるのか

私たちの活動は、農地水環境保全活動から始まり、農業の多面的機能発揮交付金事業として法律に定められるまでになりました。しかし、こうした活動団体は常に地域と一緒に歩むべきものでなくてはなりません。

地域の環境の保全なくして、私たちの活動の意義はあり得ませんし、地域のご意見をしっかりと聞きながら歩む必要があります。

3月6日の八方原自治会総会の席上、自治会の方々に環境保全活動に対してどのようなご意見をお持ちであるか、お尋ねする機会を給りました。

出席の会員から厳しい意見が出ました。質問の要旨は以下の通りです。

「八方原の環境を守る会」の活動範囲は圃場整備された圃場とそこに含まれる水路や農道などに限定されていると聞いている。しかし、環境保全という観点からは、それでは不十分である。土地・水は圃場だけで完結するものではないので、そこで否応なく線引きする形は無理があると思う。むしろ水系や地形などの系統にも考えを及ぼすべきではないか。」

保全活動の基盤は圃場と関連する施設となっています。



3月の自治会総会は人事案件が主な議題。今回は貴重な意見をいただいた

そのことは交付金の積算根拠が、圃場の面積であることから明確です。ところが、ご指摘の範囲についての矛盾は少なからず存在します。

水系は、山地から上流から流れ込んできますから、それらを総合的に対策すべきです。しかし、現状では農地に付帯する部分に限られます。それ以外は対象外となってしまう。それは補助金の対象として、妥当なのかも分かりませんが、保全活動の効果としては、少し物足りないと言えるかもしれません。

工事の出来栄を確認します



最後の検査は慎重に行うのだが、年度の終わりで安ど感も

れません。

農地だけの活動なら、農家以外の一般住民は関与しないという意見も出てきます。実際に農家と非農家という区分が少なからず存在します。

当会の関与する交付金は、農業生産には直接使用するものではなく、関連する施設などの保全や資源向上を図ることで、一帯の環境を保全向上させ、豊かな地域につながるものでなくてはなりません。これからも考え続けて参りたいと思います。

3月20日、今年度の資源向上（施設長寿命化）事業の委託工事が完了したことを確認する「完成検査」を行いました。

令和2年度から5か年の計画を提出し、その上で認定を受けていますので、その計画に沿って事業を実施しますが、予算の中でどれだけの効果を上げるか、常に考え続けています。

通算すると、八方原地内に投下された交付金は2000万円を超えます。それが有効に使われているか、多くの人の目を通して、見守っていただいています。今後ともよろしく願っています。